

赤ハゲ山赤壁解説看板

この壮大な崖面は、630 万年前から 530 万年前の隠岐カルデラの初期形成中に噴火した火山の断面である。風と波によって削られた高さ 200 メートルのスコリア（固い溶岩）壁から、知夫里島が形成された地質的な過程が明らかになる。赤い層は噴火で飛び出した溶岩が急速に空気に触れて冷える際に酸素に反応して鮮やかな赤に変わった。ゆっくりと流れた溶岩は黒い層になった。他の層から分かれた V 字型の白い岩の部分は、マグマが岩を突き抜けせり上がった部分に、別の溶岩が割り込んだものだ。

緑の丘と青い海を背景に赤と黒のスコリアが映える赤壁は、隠岐諸島で特に景観の優れた場所である。潮だまりに明るく黄色い藻が姿を現し、雨水が岸壁を滝のように流れ落ち、そこへ虹がかかる。冬には、雪の中で鮮やかな岸壁が浮かび上がる。

赤壁展望台へは遊歩道から歩いて行くことができる。牛があちこちに点在する緑の丘陵には興味深い植物が生育している。ここで見られる山椒は、家畜から身を守ろうとして、本州の品種よりも風味が強いものへと進化したと信じられている。